

B-1 指導上の工夫

① 子どものよさを引き出す題材の工夫

- ・「美」発見！は、鑑賞の能力を培う目的で設定した。デジタルカメラでいつも目にしている事象を新たな視点で見つめることができた。鑑賞会では、「へえ〜」「なるほど」と友達や自分の作品に感嘆の声を上げていた。「普段目にしているものを違う角度で見ることで、新たな「美」をみることができたという感想があった。「美」再発見！においてもちょっとした発想や手を加えることで、また新たな「美」ができることに気づいた。子ども達のセンスのよさに感心させられた。

② 発想を引き出す手だて

- ・「美」発見！では、著名な作家の作品や教師の作品をパワーポイントで提示した。「どんな題名かな？」など予想させるなどしたあと、「みんなも発見できるかな？」という言葉かけに「したい〜！」という声が爆発した。また、「美」再発見！でなかなかアイデアが浮かばない子どもにはその中で（「美」発見！）お話をつくってみることを話した。

③ 技術の手だてにおいて

- ・発想や感性は光っているが、技術的に不足していると自分の思いが表現できないことがある。そこで、カッターの使い方、接着の仕方、はさみの使い方など効果的に使うポイントを創作の中で取り立てて、また、個々の手を取って指導していった。

④ 鑑賞の場の設定において

- ・鑑賞の時間にとどまらず、製作途中でも友達の仕事のよさを認め合う時間「見二見二美術館」と題して毎時間鑑賞会を行った。賞賛されたり、自分の作品を参考にされたりすることにより、自信がついていったようだ。また、自分の作品にもそのよさを取り入れることが出来たり、さらなるイメージの広がりへのヒントとなった。新たな見方、感じ方を学ぶ場として大切だと考える。

⑤ 評価の工夫において

- ・製作（評価）セッションをおこなった。工夫してうまくいったこと、迷っていること、互いに、アドバイスしたり、うまくいったところやすてきなところを認め合ったりする場の設定を行った。教え合い学び合いが成立した。製作意欲が駆りたてられるとともに、自信につながっていったようである。題材を通して、共に悩んだり、賞賛し合ったりなど共感する場を意識的に設定してきた。また互いに助け合いながら製作している様子や真摯に題材に向き合っている姿をみんなに紹介していった。教師は一人ひとりを暖かい目で見ることや、作品の良いところや学習態度の素敵などを適時（即時）に認めることが大切であると考えた。また、子ども達の視点をむけさせるために造形要素にふれた言葉かけを行った。
- ・ふり返りカードやビデオ、デジタルカメラ等を評価の方法として取り入れたことで、より多面的・客観的な評価ができ、さらなる指導へと繋がった。